

平成19年度前期 授業評価アンケート結果まとめ

ソフトウェア情報学部 評価委員会

1. 学部全体の平均的な評価値

平成19年度前期の評価結果を図1に示す。

まず、評価値の読み方について記述する。「質問2、3、6～8」の五項目は5段階評価、残りの七項目（「質問1、4、5、10～13」、質問9は点数付与型ではない）は6段階評価であり、値の大小による単純比較はできない。さらに、5段階評価の五項目はすべて、受講者から見て最も妥当と思える場合の点数は3であり、3から離れるほど、いずれかの意味において妥当でないことを意味する。

以降では、6段階評価における肯定的評価と否定的評価の閾値を3.5点とする。6段階評価の七項目では、すべてにおいて閾値より肯定方向の評価と言える。ただし、閾値3.5をわずかに上回る程度のものもあり、より良い評価となることが望まれる。

5段階評価の五項目はすべて、3.0～3.8の間に位置しており、概ね妥当との評価と言える。

以上のことより、概ね本学部での授業が肯定的に評価されていると判断できる。

学部専門科目は、講義科目と演習科目に分けられ、これら2つの分類での授業評価結果の違いの有無を調べた。その結果、「質問2：開講時期・学年、質問6：授業の量、質問7：授業の速度、質問8：授業の難易度」の4項目で微差で授業科目の方が良い評価が得られているものの、残りの8項目では「演習科目の方が授業科目より良い評価が得られている」ことがわかった。

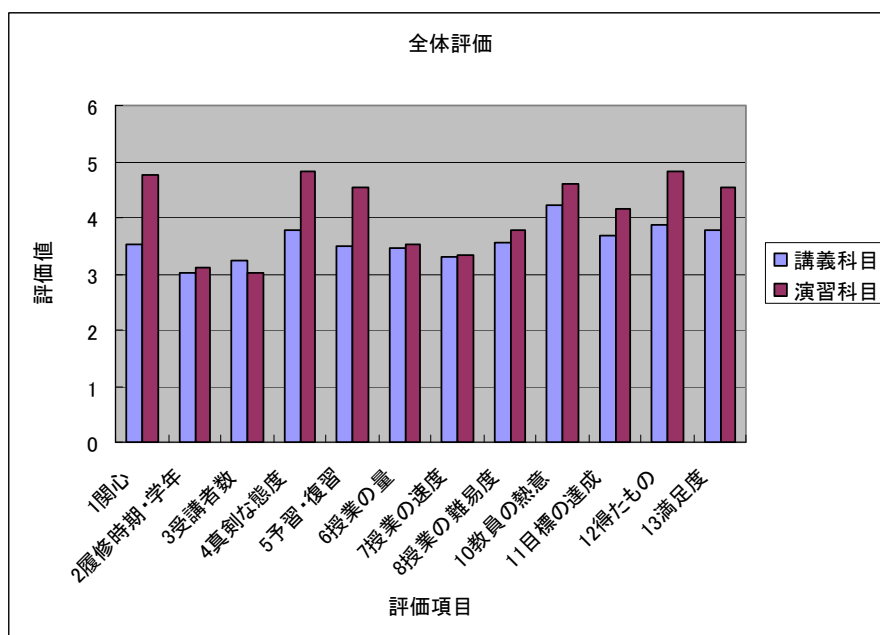


図1 平成19年度の全体評価結果

図2、3は、「質問9：授業技術や準備について特に改善すべき項目は何ですか。優先順位の高い順に3つまであげなさい」に対する回答を講義科目と演習科目に分けて示したものである。

講義科目では、「ア：教員の話し方」、「イ：教材（視聴覚教材を含む）や板書の使い方」、「ウ：授業内容の構成、整理」に関して15%以上の改善要求がある。

演習科目では、「ウ：授業内容の構成、整理」、「カ：課題やレポートと授業内容の関係」において15%以上の改善をもとめる回答があった。

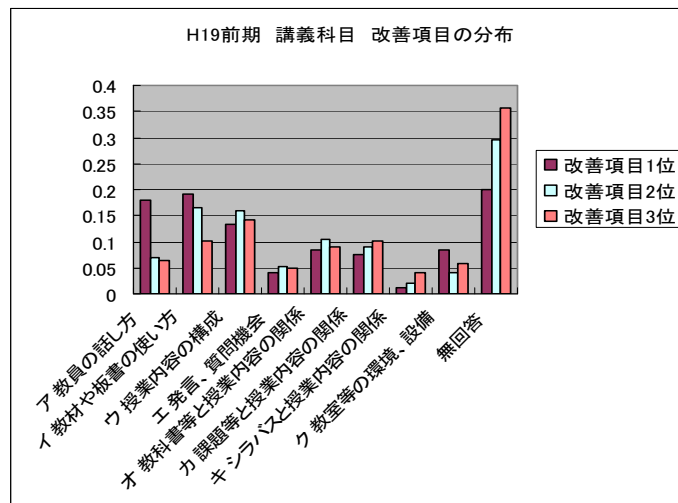


図2 平成19前期 講義科目改善項目の分布

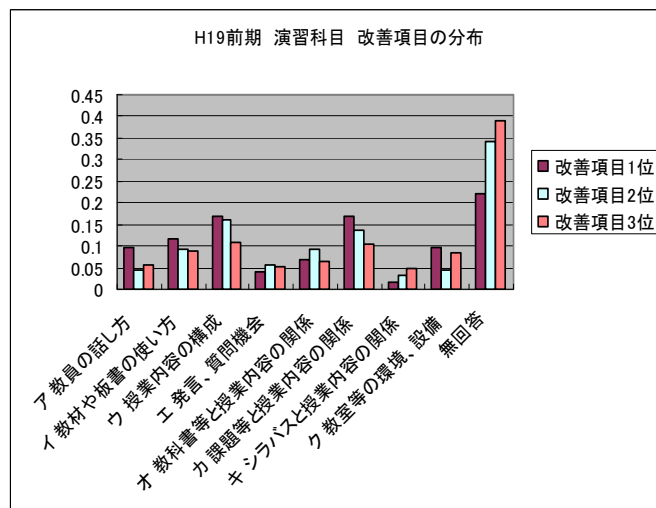


図3 平成19前期 演習科目改善項目の分布

以降の分析では、演習科目と講義科目に分けて分析検討を進める。

2. カテゴリ別評価

(1) 演習科目

図4に演習科目の平成19年度前期評価値を示す。前述の通り質問2、3、6～8は五段階評価であり「⑥」は存在しない。

6段階評価の七項目では、「質問1：この授業にはもともと強い関心があった」、「質問4：この授業に真剣な態度で参加できた」、「質問10：教員の熱意を感じた」、「質問12：この授業で得たものは多かった」、「質問13：総合的にこの授業に満足できた」の五項目において、80%以上が④以上の肯定的な回答を行っている。ただ、「質問5：この授業の予習・復習や課題等に積極的に取り組んだ」、「質問11：授業の到達目標を達成した」の二項目において④以上の評価が若干80%を下回っている。総合的にみて、基本的には本学部の演習科目は、受講者から肯定的に評価されていると判断されるが、授業課題に積極的に取り組み、その上で授業の達成感を持たせるといった指導が必要と思われる。

また、5段階評価の五項目では、「質問8：授業の難易度」を除く4項目で、「妥当である」ことを示す「③」と回答した回答者が50%を越えている。この状況は平成17、18年度と大きな変化はなく、基本的には本学部の演習科目は、受講者から概ね肯定的に評価されていると判断される。「質問8：授業の難易度」については、「難しい」ことを示す「④、⑤」の回答が50%を越えているのに対し、「易しい」ことを示す「①、②」の回答は5%未満である。受講者にはどちらかと言えば、難しく感じられているようである。

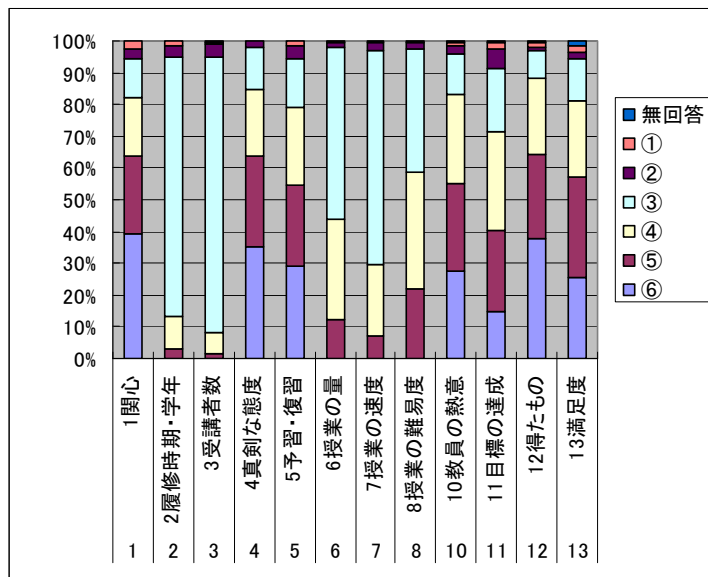


図4 演習科目 平成19年度前期評価値

(2) 講義科目

図5に演習科目の平成19年度前期評価値を示す。

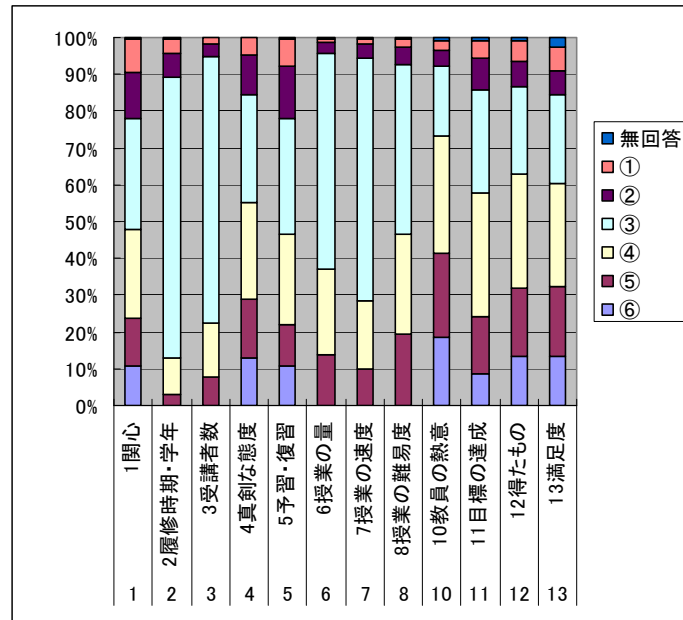


図5 講義科目 H19年度前期評価値

こちらでは、6段階評価の七項目では、「質問1：この授業にはもともと強い関心があった」において③以上のそれなりの関心を持つ回答者は70%を越えるが、④以上の積極的的回答が50%を下回っている。「質問4：この授業に真剣な態度で参加できた」、「質問5：この授業の予習・復習や課題等に積極的に取り組んだ」においても③以上は70～80%であるが、④以上が40～50%と低い。「質問10：教員の熱意を感じた」では④以上が70%を超えるが、「質問11：授業の到達目標を達成した」、「質問12：この授業で得たものは多かった」、「質問13：総合的にこの授業に満足できた」においては④以上が約60%となっている。

もともと関心が低い科目に対して、教員の熱意は感じるが、授業に真剣な態度で予習・復習や課題等に積極的に取り組み、授業目標を達成し授業に満足するといった所までいたっていない学生の様子が窺える。講義科目での改善要求項目である、「ア：教員の話し方」、「イ：教材（視聴覚教材を含む）や板書の使い方」、「ウ：授業内容の構成、整理」等を考慮して尚いっそうの授業改善が望まれる。

一方、5段階評価の五項目では、演習科目と同様の傾向が見られる。すなわち、

- 「質問8：授業の難易度」を除く4項目で「妥当である」ことを示す「③」と回答した回答者が50%を越え、
- 「質問8：授業の難易度」については、「難しい」ことを示す「④、⑤」の回答が40%を越えているのに対し、「易しい」ことを示す「①、②」の回答は7%程度見られる。

受講者にはどちらかと言えば、難しく感じられているようである。

講義科目は演習科目より評価が低いことから、講義科目について、さらに分析を進める。講義科目は以下のカテゴリに分類した。

- I 専門共通科目
- II コース科目
- III 展開科目
- IV 関連科目

図6に、講義科目のカテゴリ別評価値の比較を示す。

コース科目での評価値が全体的に高く、「質問1：この授業にはもともと強い関心があった」、「質問4：この授業に真剣な態度で参加できた」、「質問5：この授業の予習・復習や課題等に積極的に取り組んだ」、「質問10：教員の熱意を感じた」、「質問11：授業の到達目標を達成した」、「質問12：この授業で得たものは多かった」、「質問13：総合的にこの授業に満足できた」、すべてにおいてほぼ④以上の回答となっている。各講座における取組みが評価できる。ついで、評価が高いのは展開科目、専門共通、関連科目の順となっている。

平成18年度と同様に、専門共通、関連科目においては、「質問1：この授業にはもともと強い関心があった」が低いところを担当教員の熱意で補っていることが窺われる。

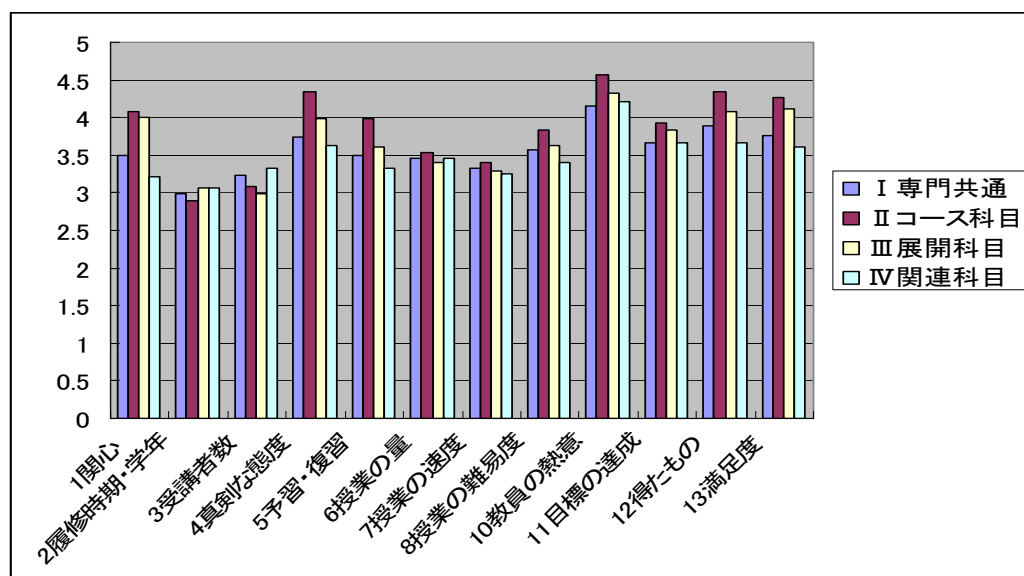


図6 講義科目のカテゴリ別評価値の比較

講義科目を対象にして、質問項目に対する回答の相関を調べた。「質問11：授業の到達目標を達成した」、「質問12：この授業で得たものは多かった」、「質問13：総合的にこの授業に満足できた」の3項目は授業改善の結果を反映する包括的な指標と考えられる。故に、他の9項目とこの3項目との間の相関に注目することとする。図7に講義科目の質問項目間の相関を示す。

質問11、12、13に共通して、「質問4：真剣な態度で参加できたか」、「質問5：予習復習や課

題に積極的に取り組んだか」といった、受講者自身の取組みに関する項目の相関が高い。それ以外では、「質問 1：もともと強い関心があったか」や「質問 10：教員の熱意をどの程度感じたか」と大きな相関がある事が分かる。一方で、5段階評価の五項目は相関が低い。前述の通り、これら五項目は概ね妥当との評価が得られているが、そのことが総合評価に直ちに結びついてはいない。教員においては、「授業の量、速度、難易度等の technical なこと」よりも、「熱意といった emotional なこと」の方が包括的な評価に結びつきやすいと考えられる。

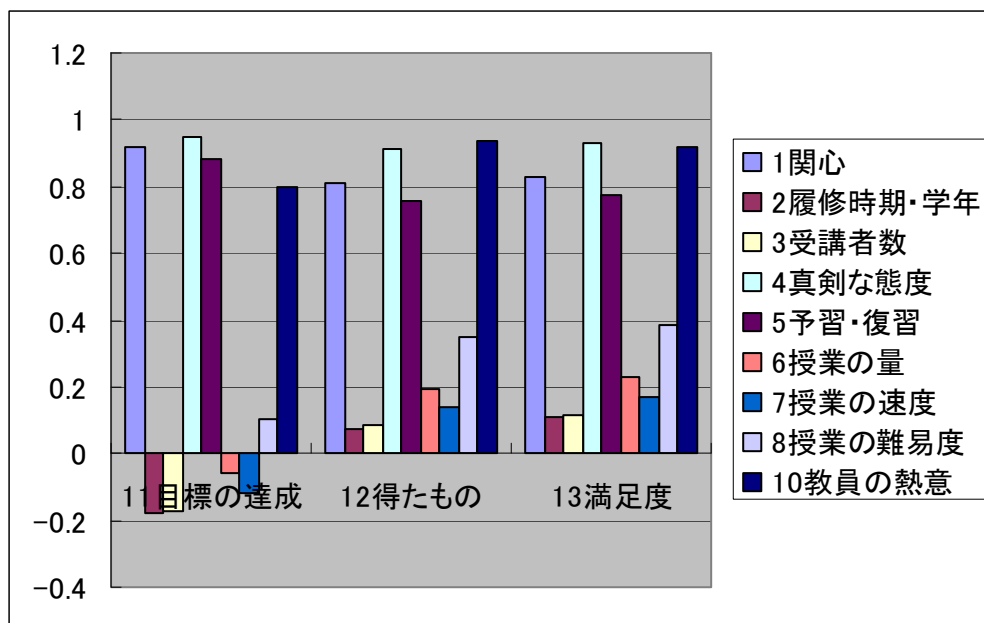


図 7 講義科目の質問項目間の相関

3. 今後の学部の取り組み

平成 19 年度前期の評価結果では、講義科目と演習科目共に、概ね肯定的回答を得ており、基本的には本学部での授業が評価されている。講義科目のカテゴリ別評価では、コース科目での評価値が全体的に高く、各講座における取組みが評価できる。授業課題に積極的に取り組み、その上で授業の達成感を持たせるといった指導がさらに必要と思われる。もともと関心が低い科目に対して、教員の熱意を感じるが、授業に真剣な態度で予習・復習や課題等に積極的に取り組み、授業目標を達成し授業に満足するといった所までいたっていない学生の様子が窺える。講義科目での改善要求項目である、「ア：教員の話し方」、「イ：教材（視聴覚教材を含む）や板書の使い方」、「ウ：授業内容の構成、整理」等を考慮して尚いっそうの授業改善が望まれる。

分析の結果、「授業の量、速度、難易度といった technical なこと」よりも、「熱意といった emotional なこと」の方が包括的な評価に結びつきやすい事が分かった。特に、講義科目においては、熱意をもって授業を努めるよう注意を促してゆく必要がある。

(ソフトウェア情報学部 評価委員会)